

新しい文化芸術拠点施設の 整備予算可決

一枚方市市民会館が大きく変貌！

（仮称）枚方市総合文化芸術センターの整備費が3月議会でも可決された。同センターは、長年親しまれてきた市民会館ホールと市民ギャラリー等の機能を移転し、文化芸術の拠点施設として、枚方市駅北口の「ラポール」ひらかたの隣に整備される。事業を担当する文化振興課にお話を伺った。

Q：センターの建設が決まりましたね？

A：今年の10月に着工、平成33年1月に竣工、開館準備をして33年度上半期の開館を目指しています。

Q：施設整備にかかる費用はどれくらいですか？

A：設計費や建設工事費、備品購入費、開業費を含めた総額で約142億7500万円を予定しています。

Q：この事業のために多額の起債（借金）をするようですが、大きなツケを将来に回して、市の財政が苦しくなる心配は？

A：起債の償還費用は、建物・用地を合わせ、ピーク時で年間約6億円。市では、将来にわたり安定した財政運営を維持するため「長期財政の見直し」を策定し、センター整備費用や償還費用、管理運営費用も見込んだ上で、計画的に財政運営を進めていきます。

Q：管理運営にも費用がかかると思いますが？

A：運営に必要な総費用は年間約5億9千万円。チケット販売や施設利用料などの収入を除き、税金からの拠出金は3億3600万円と想定しています。管理運営については、開館当初から民間事業者による指定管理者制度を活用する考えです。

Q：年間で3億3600万円の「赤字」ですか？

A：センターは文化芸術の持つ力で、子どもたちの心を育み、市民を元気づける教育・文化施設です。また、より多くの人に利用していただき、本市の魅力を発信する地域活性化のための施設でもあります。できる限り効率的に運営する必要はありますが、政策的投資として一定の公的負担は必要だと考えています。

Q：T-SITEのオープンで駅前周辺の流れが変わったように感じる。センターも枚方市を魅力ある街にするために大きな



エントランスロビー（美術ギャラリー側）イメージパース

役割を果たしてほしい。
A：西宮北口に兵庫県立芸術文化センター等の施設が整備され、街の「顔」が変わったことで、西宮市に対する評価が高まった例もあります。ぜひこの事業を成功させたいと思っています。

※当事業については今後も取材予定。AGORAまでご意見をお寄せください。



（仮称）枚方市総合文化芸術センター外観イメージパース